

小津安二郎

YASUJIRO OZU



2025年

12月4日(木)-5日(金)

会場：右京ふれあい文化会館ホール

前売券 1,000円／当日券 1,300円

(全席自由席・各作品とも)

※ 1作品ごとにチケットが必要です。
チケット1枚につき4作品のなかから
どれでも1作品ご鑑賞いただけます。

※ 上映作品ごとの入替制です。
次に上映する作品をご覧ください方も
一旦ロビーに出て次の入場時間まで
お待ちください。

10月20日(月) 9時 発売開始

詳細は裏面をご覧ください。



右京ふれあい文化会館

京都市右京区太秦安井西裏町 11 番地 6
TEL:075(822)3349

12.4[木] お早よう

12:30★-14:05

1959年 / 松竹大船 / 総天然色 / 94分 / DCP

近所付き合いの小さな波風に振り回される大人たちと、テレビを買ってとねだる子供たち。東京郊外の新興住宅地を舞台に、戦後の庶民生活を小津流に活写した作品で、軽さのある演出が際立っている。幼い兄弟のオナラのギャグが実に微笑ましい。



©1959 松竹株式会社

■脚本：野田高梧、小津安二郎／撮影：厚田雄春／音楽：黛敏郎

■出演：設楽幸嗣、久我美子、佐田啓二、笠智衆、島津雅彦、三宅邦子、杉村春子、泉京子、高橋よと、沢村貞子、東野英治郎ほか

12.4[木] 東京物語

14:25★-16:40

1953年 / 松竹大船 / 135分 / モノクロ / DCP

年老いた親が成長した子供たちを訪ねて親子の情愛を確認しあうという題材が、小津の手にかかるとどうなるかを示す傑作。何気ない言動が教える各人の生活、思いがけない心情の吐露と発見、そして何事もなかったような人生の悲哀と深淵が見事に描かれている。公開から60年経った2012年、英国映画協会(BFI)が10年ごとに発表している「映画監督(358人)が選ぶ史上最高の映画」で、「東京物語」は第1位に選ばれた。



©1953 松竹株式会社

■脚本：野田高梧、小津安二郎／撮影：厚田雄春／音楽：斎藤高順

■出演：笠智衆、東山千栄子、山村聡、三宅邦子、杉村春子、原節子、香川京子、東野英治郎、中村伸郎、大坂志郎、十朱久雄ほか

12.5[金] 彼岸花

12:30★-14:30

1958年 / 松竹大船 / 118分 / 総天然色 / DCP

自分に相談もせず、結婚相手を決めた娘(有馬稲子)のふるまいに動揺する父親(佐分利信)の姿を描く。娘の結婚を応援する山本富士子の助演も絶妙。初のカラー作品で、監督が好んだドイツのアグファカラーの落ち着いた発色は、以後“小津の色”として定着する。



©1958 松竹株式会社

■原作：里見淳／脚本：野田高梧、小津安二郎／撮影：厚田雄春／音楽：斎藤高順

■出演：佐分利信、田中絹代、有馬稲子、久我美子、佐田啓二、高橋貞二、山本富士子、桑野みゆき、笠智衆、浪花千栄子ほか

12.5[金] お茶漬の味

14:50★-16:45

1952年 / 松竹大船 / 115分 / モノクロ / DCP

生まれや気質の違いゆえに心の通わない中年夫婦が、夫の南米行きを契機に互いの絆を確認しあう。小津安二郎監督は、戦時中に映画化できなかった出征前夜の物語を、海外出張という設定に変えて実現。乗り物、娯楽、食べ物など、戦後生活を彩る諸相が随所に散りばめられている。



©1952 松竹株式会社

■脚本：野田高梧、小津安二郎／撮影：厚田雄春／音楽：斎藤一郎

■出演：佐分利信、小暮実千代、鶴田浩二、淡島千景、津島恵子、笠智衆、三宅邦子、柳永二郎、十朱久雄、望月優子、設楽幸嗣ほか

★入場時間は各回ともに10分前頃を予定しております。上映作品ごとの入替制です。

小津安二郎

小津安二郎研究最前線：まだまだ、発見がある

宮本明子（同志社女子大学 表象文化学部 准教授）

2025年

12月4日(木)～5日(金)

会場:右京ふれあい文化会館 ホール

前売券 1,000円／当日券 1,300円
(全席自由席・各作品とも)

※ 1作品ごとにチケットが必要です。

チケット1枚につき4作品のなかから
どれでも1作品ご鑑賞いただけます。

※ 上映作品ごとの入替制です。

次に上映する作品をご覧ください方も
一旦ロビーに出て次の入場時間まで
お待ちください。

チケットのご予約・ご購入

■右京ふれあい文化会館

075-822-3349

9時～17時 / 毎週火曜日休館
(休日の場合は翌平日)

■京都コンサートホール

075-711-3231

10時～17時 / 第1・第3月曜日休館
(休日の場合は翌平日)

■ロームシアター京都

075-746-3201

10時～17時 / 年中無休
(臨時休館日を除く)

■オンラインチケット

<https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/>

24時間購入可

※要事前登録(無料)

Q 京都コンサートホール チケット

※ 右京ふれあい文化会館では、直接ご来館いただいたうえで現金でのお支払い、チケットの受取りになります。

※ 京都コンサートホール、ロームシアター京都でご予約の場合は、①どちらかのチケットカウンターでのお支払い、チケットの受取り、②セブンイレブンでのお支払い、チケット受取り(手数料が必要です)、③郵便局でのお振込み、チケットの郵送(郵送料等が必要です)が可能です。

アクセス

- 鉄 道 JR 山陰本線嵯峨野線「花園駅」下車 南へ徒歩約5分
京都市営地下鉄東西線「太秦天神川駅」下車 ①番出口から北へ徒歩約10分
京福電鉄嵐山線「嵐電天神川駅」下車 北へ徒歩約12分
- 市バス 27・特27号系統「右京ふれあい文化会館前」下車
91・93号系統「花園駅前」下車 / 8・特8・75号系統「黒橋」下車



右京ふれあい文化会館

京都市右京区太秦安井西裏町11番地6
TEL:075(822)3349



発見された助監督使用台本(個人蔵)表紙

私は小津安二郎監督の映画制作過程を研究しています。

2023年には、小津監督の撮影現場で使用された台本4冊が発見され、大きな注目を集めました¹。台本発見者である松浦莞二氏とその内容を調べると、小津監督が台本完成後に台詞やト書きを多く変更していたこと、編集段階で音声を入れ替えていたことなど、定説を覆す事実が明らかになりました。

たとえば、今回の上映作品のひとつ、『お早よう』には数百もの修正が加えられていました²。小津監督が現場でも台本を検討し、推敲を重ねていた過程が見えてきたのです。

これまで、小津組の台本は執筆時に練り上げられるので完成度が高く、撮影時に直すところはほとんどないと考えられてきました。今回の発見はこうした定説を検証し、撮影現場の実態に迫るさらなる手がかりを得る機会となったのです。ただし、台本への書き込みや修正の数は作品によっても異なります。

台本をはじめとする映画の資料に残る痕跡に注意しながら、これからも研究を続け、小津監督や映画に迫りたいと思っています。

- 2023年10月28日放送「NHKニュース7」では、台本発見者・松浦莞二が取材を受けました。
- この例を含む台本の調査結果は、以下の論考でまとめています。
宮本明子、松浦莞二「助監督使用台本による小津安二郎監督作品生成過程の分析」『紀要 アート・リサーチ』25(2) 63-71頁、2024年12月25日。

